

技 術 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成27年度病害虫発生予察技術情報第3号

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ） 新世代の発生量及び果樹園への飛来時期について

本県の果樹カメムシ類の主体であるチャバネアオカメムシの越冬量は平年並でしたが、これまでに県内各地のフェロモントラップで一時的に多数の成虫が捕捉され、一部のナシ園では被害を認めるなど、果樹園への飛来が見られています。このことと、県内全域でヒノキのきゅう果の着生量が少なく、きゅう果上に生息する虫数も少ない状況から、ヒノキに定着できなかった越冬世代虫が長期にわたって移動を繰り返していたものと推察されます。

今後の発生量については、下記のとおり少ないことが予想されますが、果樹園への飛来時期や飛来量は地域や園地によって異なりますので注意してください。

記

1. 新世代の発生量について

- (1) 7月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、1枝当たりの寄生虫数は0.6頭（平年2.0頭）と平年より少なかった（表1、2）。
- (2) 7月下旬に実施したヒノキのきゅう果着生状況調査の結果、県内15地点（内2地点はきゅう果の着生が認められず、計算から除外した）の平均着生量は1.0（平年2.9）と平年に比べ少なく、過去十年で最も少なかった（表1、2）。
- (3) 県下全域でヒノキのきゅう果量が少ないことから、越冬世代が死滅後の9月以降、新世代の発生量は平年に比べ少ないと予想される。

表1 ヒノキ樹（きゅう果着生枝）における果樹カメムシ類の寄生状況*（平成27年7月21、23日調査）

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計	きゅう果着生量**
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計		
平成27年	0.4	0.0	0.1	0.1	0.6	0.0	0.0	0.02	0.0	0.0	0.6	1.0
平年	0.4	0.3	0.4	0.5	1.7	0.1	0.2	0.0	0.0	0.3	2.0	2.9

* 平成27年7月21日および23日にヒノキきゅう果結実枝のビーティング調査を実施、きゅう果の着生が認められない調査地点は除外して算出した

** 調査地点毎に5段階（多:5、やや多:4、中:3、やや少:2、少:1）で達観調査し、平均値を示した

表2 果樹カメムシ類の寄生状況およびヒノキのきゅう果着生量の年次別推移

年度	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	平年	27年
寄生虫数(頭/枝)	0.2	3.0	0.3	1.8	2.6	2.6	1.2	2.8	4.7	2.2	2.0	0.6
きゅう果着生量	4.8	2.9	1.6	4.4	2.4	2.6	3.1	3.0	2.2	3.5	2.9	1.0

注1) 値は長崎県病害虫防除所の調査(ビーティング法)による

注2) きゅう果着生量は、程度を5段階(多:5, やや多:4, 中:3, やや少:2, 少:1)として達観調査した

2. 果樹園への飛来時期について

- (1) 7月21日および23日に採集したヒノキきゅう果上の口針鞘数調査の結果、調査地点の平均の口針鞘数は6.2本(平年1.9本)であった(調査15地点中2地点はきゅう果が認められなかったため計算から除外した)。算出したヒノキからの離脱予測日は、全調査地点を平均すると8月22日であったが、調査地点ごとでは7月30日～9月14日の範囲と異なり、離脱時期の早晩に地域性は認められない(表3、4)。
- (2) 既に新世代成虫がヒノキから離脱した地点と、今後、離脱すると予想される地点が県内に混在することから、飛来時期の予測は困難であり、散発的・局地的な発生が想定される。

表3 ヒノキきゅう果における口針鞘数及び離脱予測日

調査地点	口針鞘数 (1果当たり)	離脱予測日
諫早市多良見町東園	13.0	7月30日
〃 佐瀬	11.7	8月4日
長与町岡	6.6	8月22日
時津町西時津	10.4	8月8日
西海市西彼町小迎	—	—
西海市西海町木場	5.0	8月28日
諫早市長田	1.8	9月6日
大村市今村	0.0	9月12日
東彼杵町赤木	0.2	9月14日
雲仙市瑞穂町伊福	1.9	9月6日
雲仙市国見町百花台	10.8	8月5日
南島原市有家町新切	4.7	8月27日
南島原市北有馬町田平名	—	—
佐世保市宮	8.8	8月14日
佐世保市針尾	6.0	8月24日
平均	6.2	8月22日

表4 口針鞘数及び離脱予測日の年次別推移

年度	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	平年	27年
調査日(月/日)	7/19	7/28	7/28	7/28	7/26	7/28	7/22	7/26	7/22	7/22	7/24	7/22
口針鞘数(本/果)	0.1	3.7	0.8	1.9	2.5	2.4	0.7	2.8	2.5	1.2	1.9	6.2
離脱予測日(月/日)	9/10	9/6	9/17	9/13	9/9	9/11	9/12	9/8	9/5	9/9	9/10	8/22

注1) 平成27年7月21日および23日に採集した、きゅう果30果についての口針鞘数を数えた

注2) きゅう果は1果当たりの口針鞘数が25本以上になると餌として不適となるため、カメムシはヒノキから離脱して果樹園に飛来する

注3) 予測日は予測式(福岡県農業総合試験場作成)を利用して算出した

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 発生量は少ないと考えられるが、特に、山林に近い園地や毎年発生を認める園地などでは、上記の予測日を目安に見回りを徹底し、カメムシ類の飛来が認められた場合には早急に防除を行う。
- (2) 飛来時期や飛来量は園地によって異なる場合があるので注意する。

○6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

